

# 第 20 回全国障害者生活支援研究セミナー

## 「本人中心支援の検証とこれから」

日 時 : 2019 年 2 月 16 日 (土) ~ 2 月 17 日 (日)

会 場 : 川崎市コンベンションホール

(神奈川県川崎市中原区小杉町 2 丁目 276 番地 1

パークシティ武蔵小杉 ザガーデンタワーズイースト 2 階)

主 催 : 特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会 (サポート研)

<http://support-ken.net/>

会場が例年と異なります。  
ご注意ください

<全国障害者生活支援研究会 (サポート研) 事務局>

〒210 - 0848

神奈川県川崎市川崎区京町 2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 松永・加藤

## 第 20 回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項

### 「本人中心支援の検証とこれから」

#### ●開催要項

障害者権利条約第3条の一般原則には、「固有の尊厳、個人の自律（自ら選択する自由を含む。）及び個人の自立の尊重」と「社会への完全かつ効果的な参加及び包容」が含まれていますが、障害者を取り巻く現状は、まだほど遠い状況にあります。

戦後長い間、いわゆる「重度」の障害者は、就学猶予・免除制度により学校教育から排除され、入所施設が最適とされてきました。しかし1979年に全員就学が実現すると、卒業した人のための通所施設への要望が高まり、国にその制度がなかったため、各地で様々な形態の通所施設が生まれました。その交流の中から、1986年に「全国精神薄弱者通所更生施設運営研究会」が結成され、1994年に「障害者通所活動施設リーダー職員研修会」に発展しました。従来の「授産」や「作業」には適さない人に、「社会参加と自己実現」を目的とする「日中活動」という新たな概念を作り出し、国に制度化を求めました。これが現在の「生活介護事業」の始まりです。

1999年には地域生活面の支援者等も加わり「(NPO)全国障害者生活支援研究会」(通称サポート研)に発展し、多くのサポートを必要とする障害者の地域での暮らしと自己決定の尊重を目指して、毎年「研究セミナー」を開催してきました。

この間、国の制度は、2003年に措置制度から契約制度へ、2006年に自立支援法へ、2013年に障害者総合支援法へと激変し、2011年に障害者基本法改正、2014年に障害者権利条約批准、2016年に障害者差別解消法成立がありました。

サポート研は、支援現場での実践を踏まえて「本人中心」や「意思決定支援」などの考え方を提言し、国の制度改革にも少なからず影響を及ぼしました。

第20回研究セミナーは、これらの経過を踏まえて「本人中心支援の検証とこれから」を共に考え、今後の課題を共有したいと思えます。

全体会は、このたび糸賀一雄賞を受賞された明石徹之氏・洋子氏に「意思と希望を貫いて生きる」と題して講演していただきます。徹之氏は知的障害と自閉症がある川崎市職員として、また洋子氏は「ありのままの子育て」の著者として著名です。

パネルディスカッション「本人主体の支援実践を語る」では、パネリストを名里晴美氏(訪問の家)、岩崎隆彦氏(水仙福祉会)、清水明彦氏(西宮市社会福祉協議会)に、コーディネーターを松永徹氏(翔の会)にお願いしました。講師の明石洋子氏もパネリストも本セミナーの毎年参加者で、「本人中心支援」を考える貴重な機会となります。

2日目は、4つの分科会に分かれて、全体会のテーマを深めあいます。

#### ○主催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会(サポート研)

#### ○後援(予定)

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会/社会福祉法人 東京都社会福祉協議会/東京都障害者通所活動施設職員研修会/社会福祉法人 全国社会福祉協議会全国社会就労センター協議会/一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会/公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会/公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会/一般社団法人 日本自閉症協会/日本障害フォーラム/特定非営利活動法人 東京都発達障害支援協会/特定非営利活動法人 日本障害者協議会/全国自立生活センター協議会/認定特定非営利活動法人 D P I 日本会議/きょうされん/全日本自閉症支援者協会/全国手をつなぐ育成会連合会

#### ○参加対象者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方  
(手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください)

#### ○募集定員

300名(分科会の定員数にご注意ください)

## ○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000 円 情報会員 11,000 円 その他 12,000 円(学生 6,000 円) 懇親会費別途 5,000 円  
【1日のみ参加】正会員 6,000 円 情報会員 6,500 円 その他 7,000 円(学生 3,500 円) 懇親会費別途 5,000 円

## ○申込締切

2019年1月25日（金）。1日目・2日目ともに、定員に達した段階で締め切らせていただきます。

## ○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送またはFAXにてご送付下さい。

申し込み	京王観光 調布支店（担当：児玉） E-mail m.kodama@keio-kanko.co.jp
問合せ先	〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321

## ○日 程・会 場・内 容

### ◎1日目 2019年2月16日（土）

9:30~10:00	10:00~10:10	10:10~11:40	12:40~16:45	18:00~20:00
受 付	開会挨拶	基調講演	シンポジウム・まとめ	懇親会
川崎市コンベンションホール ホールB・C				海宴丸

### ●全体会（10:00~16:45）

◇会 場 川崎市コンベンションホール TEL 044-455-6340  
神奈川県川崎市中原区小杉町2丁目276番地1  
パークシティ武蔵小杉 ザガーデンタワーズイースト2階

### ◆開会挨拶（10:00~10:10）

赤塚 光子（当代会長）

### ◆基調講演（10:10~11:40）

「意思と希望を貫いて生きる」

明石 徹之 氏（当事者 [知的障害・自閉症]、川崎市職員・神奈川）

明石 洋子 氏（社会福祉法人 あおぞら共生会・神奈川）

### ◆パネルディスカッション（12:40~16:35）

「本人主体の支援実践を語る」

パネリスト 名里 晴美 氏（社会福祉法人 訪問の家・神奈川）

岩崎 隆彦 氏（社会福祉法人水仙福祉会・大阪）

清水 明彦 氏（社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会・兵庫）

コーディネーター 松永 徹 氏（社会福祉法人 翔の会・神奈川）

### ◆まとめ（16:35~16:45）

赤塚 光子（当代会長）

### ●懇親会（18:00~20:00）

◇会 場 「海宴丸 武蔵小杉店」（コンベンションホール隣のビル2階）  
川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉タワープレイス2F 044-712-1160

◎2日目 2019年2月17日(日)

分科会2のみ9:15開始

9:00~9:30	9:30~15:30 (途中休憩あり)
受付	分科会
川崎市コンベンションホール ホールB・C・会議室1+2・会議室3+4	

●分科会 (9:30~15:30) 分科会2のみ9:15開始

◇会場 川崎市コンベンションホール TEL 044-455-6340  
 神奈川県川崎市中原区小杉町2丁目276番地1  
 パークシティ武蔵小杉 ザガーデンタワーズイースト2階

分科会1: 会議室3+4 (定員30名) 分科会2: ホールB  
 分科会3: 会議室1+2 (定員40名) 分科会4: ホールC 事務局: 控室3  
 ※分科会は、後掲「各分科会のテーマ及び要旨」をご覧のうえ、いずれか一つをお選び下さい。  
 ※分科会1・3は定員に限りがあります。ご注意ください。  
 ※会場は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848 神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608 TEL/FAX 044-271-8788  
 E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp 担当 松永・加藤

○会場アクセス

川崎市コンベンションホール TEL 044-455-6340  
 JR南武線・湘南新宿ライン・横須賀線「武蔵小杉」駅北改札口 徒歩約4分  
 東急東横線・目黒線「武蔵小杉」駅 徒歩約5分

会場が例年と異なります。  
 ご注意ください

○会場周辺案内図



**注意**  
 JR横須賀線でお越しの方は、東京寄りの階段から南武線ホームを目指し、南武線ホームを過ぎた北改札口を出てください。横須賀線ホームから北改札口まで10分近くかかります。

**注意**  
 コンベンションホールは、ビルの1階からは入れません。歩道橋の階段またはエレベーターで2階に上がり、2階入口よりお入りください。

東京駅からJR横須賀線でJR武蔵小杉駅まで19分 / 羽田空港駅から京急線で品川駅乗換JR横須賀線で武蔵小杉まで約40分 または 京急川崎駅乗換JR南武線で武蔵小杉駅まで約40分

分科会 1 意思決定支援

定員 30 名

◆ 本人の『声』を聴き、本人の主体、思いを支える関わりについて、実践から考える

分科会 1 では、「本人の思いを聴く」をテーマに、研究セミナーを行ってきました。本人主体は支援の基本ですが、実際の支援の場面において、本人の思いを聴き、本人の意思に応えるのは簡単なことではありません。

どんなに障害の重い人であっても、意思をもっています。そして、本人の意思を発現するためには、それを聞き取る存在を欠かす事ができません。相互的な関係により、より豊かにはっきりと本人の意思が立ち現れ、それに支援者はつき動かされて、実践を行います。本人の思いを聴き、本人に寄り添って実現へのプロセスを支援することが意思決定の支援だと考えます。

意思決定の支援をめぐり、当事者と支援者をお招きし、実際の取り組みを報告していただきます。午後にはグループに分かれて討議を行います。この分科会を通じて意思決定の支援についてより理解が深まり、日々の実践がより充実することを願います。

\* 当日のグループ・ディスカッションでは、本人の声を聴き、それに応える支援について実践や悩みを話し合います。書面は不要ですが、事例をお考えの上お越しく下さい。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明
- 9:40 実践報告①「お金だけじゃないよね～私が見つけた大切なこと」  
発表者：藤田 靖正 氏、原 理子 氏（さんわーく かぐや・神奈川）
- 10:45 実践報告②「触法の A さんを地域で支えて 4 年。そこで感じた意思決定支援について」  
発表者：山口 博之 氏（社会福祉法人夢 21・神奈川） 他
- 11:50 午後の説明、移動
- 12:00 昼食
- 13:00 グループ・ディスカッション（事例を持ち寄り、意見交換をおこないます）
- 15:30 終了

分科会 2 サポートシステム

◆ 「本人中心」・「地域の暮らし」 これからも！

障害者を取り巻く状況は、戦後長く続いてきた措置制度から、この 15 年間に、支援費制度、自立支援法、障害者基本法改正、総合支援法、障害者権利条約批准、差別解消法を経て、大きな変貌を遂げてきました。

当サポートシステム研究分科会は、これらの改革の直前から研究活動を開始し、多くのサポートを必要とする人たちが地域社会の中でかけがえのない存在として暮らし、その意思や自己決定が尊重されるための本人中心の支援のあり方を論議し、さぐってきました。2011 年夏に行ったこの分科会の連続研究会で「意思決定支援」という考え方を整理提案し、その後法文に明記されたように、私たちの議論は国の制度改革に少なからぬ影響を与えてきたともいえます。

今回の分科会では、前日の全体会の講演・シンポジウムに引き続き、この間の激動をとらえなおし、私たちはどこまでやれてこられたのか、またやれてこられなかったのか、そして今後に残された課題は何かを、参加者のそれぞれ

の現場実践を参考に共に考え、「本人中心」・「地域の暮らし」実現の支援を明日に向かって共有する機会としたいと思います。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

9:00 受付開始

総合司会 明石 洋子 氏（あおぞら共生会・神奈川）

【午前の部】 テーマ：「本人中心」・「地域の暮らし」これからも！

9:15 講演Ⅰ 柴田 洋弥 氏（サポート研顧問・東京）

～本人中心・地域の暮らしの取りくみと課題～

10:15 講演Ⅱ 田口 道治 氏（デイセンターあゆみの家・岐阜）

～意思決定支援をめぐる～

10:45 講演Ⅲ 中西 昌哉 氏（ベテスタの家・京都）

～地域の暮らしをめぐる～

11:30 昼食

【午後の部】 テーマ：「本人中心」・「地域の暮らし」 実践と課題

12:20 実践報告（予定）

副島 宏克 氏（広島県手をつなぐ親の会・広島）

戸田 健一 氏（障害者相談支援センター夢民（むーみん）・北海道）

森川 治彦 氏（こげら会・東京）

薬師丸 和浩 氏（風の谷・神奈川）

山口 詩子 氏（いーはとーぶ・埼玉）

山口 収 氏（つどいの家・宮城）

山西 孝 氏（山梨県知的障害者支援協会・山梨）

山本 宏 氏（さくら草・埼玉）

指定発言

清水 明彦 氏（西宮市社会福祉協議会・兵庫）

コーディネーター

中島 博幸 氏（風の谷・神奈川）

15:30 終了

分科会 3 エピソード記述研究

定員 40 名

#### ◆ インクルーシブなアプローチを成り立たせるために

意思やこころを持たない人はいません。ことばでは本人の意思が分かりにくい重度、最重度と言われる重介護や強度行動障害の人の抱えるギャップは大きく、現在の共生を目指す社会に乗り遅れがちです。重度の知的障害の人が意思やこころが分かりにくいことには理由があります。教育的大義を背にした行動的対処ではすみません。ところが、それどころか、矛盾することですが、現在も、地域での支援が難しいとスティグマを刻印された人は施設入所を強いられ、地域から排除され、その人の意思に反する社会のルールに沿うことを求められます。そして、入所先での恐ろしい事件は耳に新しいです。私個人は、今、入所施設で支援をしていますが、現在の入所支援には地域へとつながる支援の本質的な変革が求められます。

地域において重度の知的障害の人へのインクルーシブなアプローチを行う際に、最も重要なことは、本人にどう納得させ、どう動かすかなどではなく、まずは、支援者が本人の意思やこころをどう感じ取り、相互に映し合い、相手と情動を往還させる感情移入が行えるのかです。その時に、意思のみならずこころの通い合いを図る支援の内容が問われます。鯨岡峻先生の提唱するエピソード記述は、支援者に生じる臆見を排除して、体験における支援者自身のこ

ころに浮かぶものを記述し、記述の体験を通して本人のこころを感じ、そこに接面がつくられていきます。その方法を用いて重度の知的障害という、ことばで自分の意思が分かりにくい人のこころを受けとめる支援を試行します。私たちサポート研エピソード記述研究会の立ち位置はそこにあります。

私の内面には支援体験を挟んで本人の内面の反映が映り込んでいます。それは、私の内面にあるもので、いくらその人を外側から見ても分かりません。私自身の内面に映っているものを見る必要があります。支援という体験の内容は、体験の中で初めて支援者のこころに感じられるものです。それを文章で表し、次に、その文章を読むと、その文章から体験時とは異なる違和感を感じることが起こります。この違和感は、文章のつたなさから来るものではありません。読むという行為の視点が実体験と異なり、支援者のより深い背景に照らして見る事が出来るからではないでしょうか。

知的障害の人は、支援者の前に必ず二次的障害を纏った状態で現れます。なぜならば、誰も養育や支援の体験を受け、良いにつけ、悪しきにつけ、原障害のままの人などいないからです。それまで受けてきた体験でつくられる関係性、養育や支援の質によってその人の二次的障害の状態は異なります。しかしながら、二次的障害は、関係形成の支援によっては改善が可能です。人と人が向き合う接面に何かしらの妨げがあり、こころが通い合わず、他者からむしろ脅かされたときに人は、独力で外的刺激への調整を行わざるを得ません。その範囲を越えれば二次的障害として刺激を制限するこだわり、同一性の保持が図られ、それは行動にも現れ、顕在化していきます。周囲にはこのときに初めて本人の異常を知ることになります。抑制が悪循環をつくり、状態像はより抑制の効かない、警戒心の強いものにもものに転化していきます。相互にこころ、情動が感じられる関係の成立によって、こだわりによる安定、行動障害に傾いた生活は、安定し、行動障害の原因となる支援者による抑制による行動統制は、不要になっていくように思います。

今回のエピソード記述研究会は、鯨岡峻先生にお出でいただき、講義と議論を行い支援実践を解き明かします。この上ない濃密な時間をお過ごしください。

- 9:00 受付開始
- 9:30 開会・趣旨説明
- 9:40 講演「(仮)接面の人間学 ～関係の中で人は生きる～」 講師 鯨岡 峻 氏 (京都大学名誉教授)
- 12:00 昼食
- 13:00 エピソード検討 「(仮)インクルーシブなアプローチを成り立たせるために」  
発表 金沢 信一 氏 (サポート研副会長)  
助言 鯨岡 峻 氏 (前掲)
- 15:30 終了

## 分科会 4 行動障害

### ◆ 行動障がいのある人の理解と支援 ～基本的視点の確認と今後の課題

行動障がいのある人は、私たちの理解が及ばない「特別な人」ではありません。「自分なりの意思・感情・内面の世界」を必ず持っています。これまで本分科会では、「本人主体の支援とは」という基本テーマのもと、「行動障がい」に焦点を当て、「どんな行動にも意味がある」「行動障がいはいつづられる」という認識に立ち、幼児期、学齢期、成人期を通して、本人の立場に立った理解と支援のあり方を追求してきました。

実践研究を積み重ねることを通して、深刻な状況に置かれた人の支援には、支援者一人ひとりが行動の背景にある困り感や思いを感知・共感できる力を養うと共に、事業所全体が「本人理解の視点を共有」しチームとして取り組むこと、家庭との信頼関係の形成や他機関との連携が欠かせないことが分かってきました。

今回は、午前の部で、聞き手（支援者を代表して）とコメンテーター（当分科会の運営委員を代表して）のやりとりを通して、『行動障がいのある人の理解と支援の基本、そこから得られた成果』を確認すると共に、今後私たちが向かうべき方向を提起します。そして、午後の部では、午前のお話を聞いて、参加者同士が実践経験を持ち寄り、「本人主体の支援の確かな知識」を各々の支援の場に持ち帰られるよう、有意義なグループ討議にしたいと思います。

本人主体の支援のあり方を真摯に話し合う試みは、必ずや事業所全体の「支援力」を向上させ、不適切な対応・虐待の防止、やりがいのある職場づくり、支援者の人間的成長に繋がっていくと確信します。その意味で、単独の参加だけでなく、各事業所から複数参加をお勧めします。幼児期、学齢期、成人期の支援に携わる多くの方々のご参加をお待ちしています。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明 山下 尚郎 氏  
(ルーテル学院大学大学院附属包括的臨床コンサルテーション・センター・東京)
- 9:45 テーマ：「行動障がいの理解と支援の基本～根本的な解決に向けて」  
コメンテーター：岩崎 隆彦氏 (社会福祉法人水仙福祉会 姫島こども園・大阪)  
聞き手：荒木 大輔 氏 (社会福祉法人武蔵野 障害者支援施設わくらす武蔵野準備室・東京)  
中島 真知子 氏 (社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 足立区綾瀬福祉園・東京)
- 12:00 昼食
- 13:00 グループディスカッション  
テーマ：「行動障がいのある人の心に届く支援をめざして～今後の課題」
- 15:15: まとめ 赤塚 光子 氏 (当会会長)
- 15:30 終了





## セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。  
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2019年2月16日(土)～2月17日(日)
- ★ セミナー会場 川崎市コンベンションホール  
神奈川県川崎市中原区小杉町2丁目276番地1パークシティ武蔵小杉  
ザガーデンタワーズイースト2階
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円 一般 12,000円 (学生 6,000円)  
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円 一般 7,000円 (学生 3,500円)
- ★ 懇親会 費用 5,000円 場所：海宴丸
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。  
2019年2月15日(金)～2月16日(土)を含む2泊


### 〔ご宿泊施設〕※お部屋タイプはシングルルームのみの設定となります

リッチモンドホテルプレミア武蔵小杉 (「武蔵小杉駅」徒歩約5分) ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *セミナー会場まで徒歩約15分 *こちらのホテルはご依頼からの手配になります。	〒211-0004 TEL 044-430-0076 川崎市中原区新丸子東3-1175-1 FAX 044-430-0078			
	2/15(金)泊	@24,000円	2/16(土)泊	@24,000円
川崎グリーンプラザホテル (「武蔵小杉駅」徒歩約11分) ご宿泊料金(1泊あたり)／食事なし・税金サービス料込み *セミナー会場まで徒歩約15分	〒211-0006 TEL 044-411-1234 川崎市中原区丸子通1-653 FAX 044-422-4107			
	2/15(金)泊	@11,600円	2/16(土)泊	@12,100円
ホテルサンルート川崎 (「川崎駅」徒歩約5分) ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *セミナー会場まで(川崎駅→武蔵小杉駅まで約10分)	〒210-0006 TEL 044-210-3610 川崎市川崎区砂子2-11-7 FAX 044-210-3611			
	2/15(金)泊	@17,500円	2/16(土)泊	@17,500円
川崎日航ホテル (「川崎駅」徒歩約1分) ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *セミナー会場まで(川崎駅→武蔵小杉駅まで約10分)	〒210-0024 TEL 044-244-5941 川崎市川崎区日進町一番地 FAX 044-244-4445			
	2/15(金)泊	@18,500円	2/16(土)泊	@18,500円
スカイハートホテル川崎 (「川崎駅」徒歩約13分) ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *セミナー会場まで(川崎駅→武蔵小杉駅まで約10分)	〒210-0015 TEL 044-233-4400 川崎市川崎区南町 FAX 044-245-4223			
	2/15(金)泊	@11,500円	2/16(土)泊	@11,500円

### ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

- ★ お申し込み方法  
セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて1月25日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を2月上旬頃送付させていただきます。
- ★ お問い合わせ先

 京王観光株調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：児玉

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00 (土・日・祝日はお休みです)

# 第 20 回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2019年1月25日（金）必着

★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 -					
		TEL	( )	FAX	( )	
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1・2 3・4	参加・不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1・2 3・4	参加・不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1・2 3・4	参加・不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル		部屋タイプ
有 無	2/15(金) (前泊)	2/16(土) (当日泊)	第一希望：  第二希望：		1・シングル  2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先 **KEIO 京王観光** 京王観光株調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：児玉

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）